

京都市・乙訓地域公立高等学校入学者選抜に係る懇談会（第5回） の概要について

1 日時 平成19年6月8日（金） 午後6時30分～午後8時15分

2 場所 ザ・パレスサイドホテル 「グランデ」の間

3 概要

（1）事務局からの説明

- ・第4回懇談会の概要説明（説明後に報告概要の確認）
- ・「まとめ」（案）の報告

（2）意見交換

《1 京都市・乙訓地域における公立高等学校入学者選抜の現状と課題について》

- ◆「志願者の目的意識の明確な普通科第Ⅱ類」という記述についてであるが、普通科第Ⅰ類にも目的意識の明確な生徒もいると思う。このままでは、現在の普通科第Ⅰ類の生徒全員が目的意識が明確でないと誤解をされる恐れがあるのではないか。
- ◆入学者選抜の現状と課題ということで、通学圏内の普通科の記述しかない。実際の背景には専門学科との関わりも影響していると考え。今後の選抜制度を考えていく上では大事なことであると思うので背景として記述していただきたい。
- ◆主たる論議が普通科に関する議論であったが、選抜の現状の中には専門学科の様子も認識しておく必要がある。
- ◆「時代のニーズに応じて改善を重ねてきたが」という記述について、生徒・保護者を加えて「生徒（中学生）や保護者、時代のニーズに応じて改善を重ねてきたが」と表現する方がいいのではないか。
- ◆京都における公立の入学者選抜については、一般選抜に先立って適性・推薦入学を実施しており、ある種の生徒が押さえられるという状況がある。この状況の中で、普通科の改善について考えてきたという表現にすべきではないか。

《2 通学区域の在り方と改善の方向性について》

- ◆今の生徒たちは、インターネットを利用して自分の進路について考え、研究することが非常に多くなってきた。現在の私学、公立の宣伝は、あまりにも大学進学ということに一本化しているのではないか。中には高校を卒業後、立派に社会貢献している人もいるわけで、序列化にならないような情報提供を子供達にするべきではないか。

- ◆単独選抜、そく大学進学、学校の序列化へと結びつかないような高校の情報提供が必要ではないか。
- ◆主に地域の子を集めて頑張っってやっていくということが大事ではないかと思う。経済的に苦しい生徒達を救えるような学科なりコースを考えてもらいたい。
- ◆改善の方向性について、「生徒の進路選択や中学校における進路指導が円滑に行えること。」という記述があるが、生徒の能力・適性、興味・関心に基づいて進路指導を行っていかないといけないと思うので、「円滑」という言葉を「適正」「適切」という言葉に修正できないか。
- ◆過去4回の懇談会の中での意見では、「2通学圏が望ましい」という意見が相対的に多かった感じはあるが、一方で「単独選抜、1通学圏が望ましい」という意見もあった。改善の方向性で懇談会の意見として「2通学圏が望ましいと考える」と一言でまとめることには抵抗がある。各委員の総意とするならば、「1通学圏」も併記できないか。
- ◆各委員の意見について微妙な表現の相違があることを踏まえ、色々な意見を集約して1つの案として出されていると考える必要があり、個々の意見については「委員の意見」の中で表現して行かざるを得ない。
- ◆地元の人たちは、ずっと通学してきた学校に自分の息子・家族を行かせたいという地域性がある。今、2通学圏が望ましいとしている訳だが、その時は現通学圏を基準にして、そこから拡大した2通学圏の方が望ましいという文言が挿入できないか。
- ◆線引きについては、最終的には行政の方で判断していくこととなるが、現行との矛盾を解消するため「通学圏を越えるシステムも必要である。」と整理しているのではないか。

《3 選抜方法の在り方と改善の方向性について》

- ◆「・高校のそれぞれの立場から幅広く検討を進めてきた」と「・生徒が行きたい高校を志願できることを保障するには、単独選抜とすべきである」は同等の関係ではないのではないか。表記の仕方を整理すべき。
- ◆単独選抜に関する記述は1行程度としているが、総合選抜に関する記述は7行程度記載されている。相対する意見としてあまりにもバランスを欠いているのではないか。単独選抜について、もう少し懇談会の意見を踏まえバランスを失しないよう表現を膨らますべき。
- ◆改善の方向性の中に、「それぞれの制度について多くの意見が出されたが」としている部分について、点線枠で意見を取りまとめて記述し、その後に改善の方向性として記載すべきである。このままでは少しまとめとして違和感を感じる。

- ◆総合選抜で行きたくない学校が出てくること自体が大きな問題で、その当たりを改善していただきたい。
- ◆「多面的な評価尺度による選抜」となると面接の導入を思い浮かべるのだが、一般選抜でどういう形で多面的な評価尺度が取り入れられるのか検討しておいてほしい。
- ◆将来的なことになるが、各学校が特色を持って単独選抜を実施するという事は、各学校が特色を持って選抜方法を実施するということに繋がる。単独選抜になった場合、学校がどのような生徒像を求めているのかということで選抜方法にも特色をもたらすことが可能になってくる。将来的にはこのような視点も見据えていくべきではないか。
- ◆特色化と選抜方法の多面的な評価とは関係があるのではないか。

《4 その他、【おわり】について》

- ◆どの高校に行っても自分が生かせる高校づくりをしてもらいたい。中高の相互連携については記述していただいているが、教育の中身についても記載していただきたい。
- ◆経済的な事情で私学にいけない子どもを公立に受け入れるための努力をお願いしたい。
- ◆中学校、高校が果たすべき努力をして、中学生・高校生にとって魅力ある学校づくりをしていかないといけない。
- ◆中学校、高校の立場に立って、子どもをどのように育てていくかということが一番大事である。
- ◆高校としては、生徒に対して学校の特色を一層鮮明にして保護者から見える開かれた学校づくりを進め、より魅力ある学校づくりを目指して、学校の質が高い教育を目指して努力していく必要がある。
- ◆中高連携を一層密して、高校側は、中学生や保護者を対象とした説明会の回数や内容について工夫・改善を図り、学校のホームページを活用して中学生や保護者にわかりやすくアピールするなど広報活動の充実を図っていくべき。中学校側は、進路について考えたり学習する機会をさらに充実させていくべきだと思う。
- ◆「4 その他」と「おわりに」が分けて記載してあるが、「4 その他」を削除して「おわりに」の中にまとめて記述する方がよいのではないか。
- ◆生徒が目的を持って、意欲を持って部活動・勉強に励んでということが中学校に良い影響を及ぼす。選抜制度を変えることにより相互にプラス効果が出るよう学校現場は受け止めていかないといけない。

《懇談会からのまとめについて》

- ◆本日の意見も含め、座長、副座長、事務局で調整をしてまとめの修正案を取りまとめ、懇談会の委員の了解をいただき、それを正式な懇談会の「まとめ」にしていきたい。そして府・市両教育長の方へ「まとめ」を提出していくことで確認。